

気候変動の農業セクターへの影響

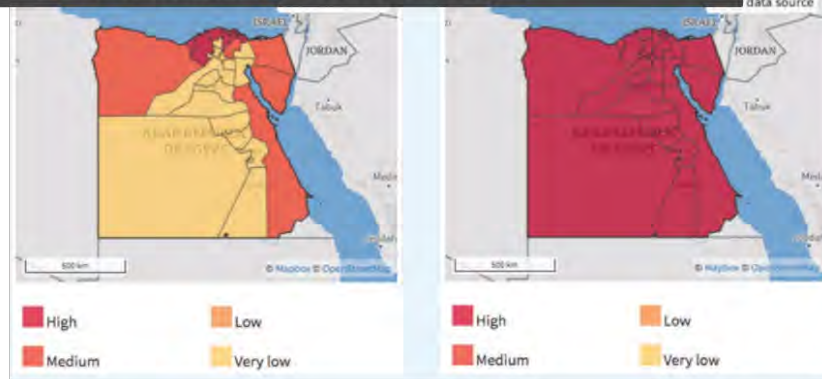
気候変動リスク 農業セクターへの影響

出典

| | | |
|-------------|---|---|
| 水不足 | エジプトの農業は主に灌漑で行われており、農業セクターは淡水資源の約80%を消費。そのほとんどがナイル川の水源に依存しているため、将来気候変動の影響による水不足や、洪水などの被害増加が懸念される | 1 |
| | 農業セクターは気温上昇に対して脆弱であり、特に一部の果物の生態圏がエジプト北部にシフトすると予想される | 1 |
| 洪水 | 蒸発率の上昇に伴い、作物がより多くの水を消費するようになり、主食(小麦、トウモロコシ等)、サトウキビ、牛乳の生産性低下や収穫量の減少が見込まれる | 1 |
| 熱波/ 気温上昇 | 気温の上昇や水ストレス、灌漑用水の塩分濃度の上昇により、2050年までに食用作物の収穫量が10%以上減少すると予測され、収穫量の減少が最も大きいのは、トウモロコシ、サトウキビ、果物・野菜と予測される | 3 |

出典情報は次ページ参照

【参考】沿岸部の洪水の危険性(左)、水不足の危険性(右)



出典:1
(次ページ参照)

図 57 : 第 1 回ワークショップに向けたワーク グループ F エジプトの農業セクターにおける気候変動課題

| 項目 | 内容 | 参考資料 |
|-------------------------------|--|------|
| 課題当事者のプロフィール | <ul style="list-style-type: none"> エジプトでは労働人口の約55%が農業に従事しており、農業セクターへの気候変動リスクはこれらの農業従事者に影響をもたらす。 エジプトでは小規模農家が多数で安価な労賃で手作業の露地栽培中心。少数の大規模農家・企業は機械を使い、農産品輸出を担う。 | 1 |
| | | 2 |
| 一番影響が大きいと思われるエリア | <ul style="list-style-type: none"> 国土の95%が砂漠であるが、3.8%を占める農地の大半はナイル川流域（特に河口のナイルデルタ）に位置する。 | 2 |
| 気候変動×農業のテーマに関するこれまでの取り組み、働きかけ | <ul style="list-style-type: none"> 気候スマート農業の実践、水管理の改善、モニタリングと早期警報の改善、知識と意思決定支援システムの開発、農業を支援するための新しい作物品種と技術の開発などの適応戦略が策定されている。 果物や野菜、ジャガイモ、米、小麦など、気候変動の影響を受けにくい作物については、気候変動に対応した品種改良、土壌肥沃度の改善、水管理、作物防疫などへの投資を増やしたり、これらの技術を組み合わせたりすることで、気候変動が農業生産性に及ぼす悪影響を食い止めることができる（研究結果）。 | 1 |
| | | 4 |

参考資料(余裕があれば、リンク先の情報ソース内容もご参照ください)

1. [World Bank Group Climate Risk Country Profile Egypt\(2020\)](#)
2. [JETRO「エジプト農業と農産品輸出の現状と課題」](#)
3. [IFPRI「Project Paper: Climate change and Egypt's agriculture」\(2021\)](#)
4. [IFPRI「Project Paper: Climate change adaptation strategies for Egypt's agricultural sector: A 'suite of technologies' approach」\(2021\)](#)

図 58 : 第 1 回ワークショップに向けたワーク グループ F その他参考情報

4-2. 第2回ワークショップに向けたワーク

4-2-1. グループA：ルワンダにおける学校給食/コミュニティ強化

- コミュニティ強化のケーススタディとして、ケニアの農村のエンパワーメントの事例について内容の確認をお願いします。

事例概要

アルファジリ社

- ケニアの貧困問題に取り組む農業サプライチェーン会社
- 農家の生活向上と高品質な農作物の安定供給を図る

貧困小規模農家の共同体「アルファチャマ」グループが農業・生活に関わるあらゆるサービスを受け、また様々な企業・組織と協働して「アルファチャマ」に対するサービスを拡充させることで、農村農家が能動的に活動し、幸福な農村社会を自らの手で創造していくことができる「アルファエコシステム」を創造する。



アルファジリ社代表薬師川氏と農家の方々



確認ポイント

- 対象としている受益者は誰か？
- 受益者やコミュニティに見られた変化は何か？
- コミュニティの組成単位は？
- スケーラビリティ・横展開のポイントは？
- ルワンダとケニアの情勢の違いは？

余力のある方へ

「コミュニティ」形成に関する他のケーススタディについても調査してください。


出展)アルファジリ社ウェブサイト(<https://www.borderless-japan.com/social-business/alphajiri/>)
ボーダレスジャパンプレスリリース(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000021621.html>)

図 59：第2回ワークショップに向けたワーク グループA ケーススタディ：アルファジリ社 (Alphajiri)

- 第1回ワークショップでの議論及び、前項で調査頂いた内容を踏まえ、ルワンダのコミュニティにおけるTo Be(理想の状態のステートメント)を考えてください。(複数案でもかまいません)

記載例: To Be(理想の状態のステートメント)

例: コミュニティの構成員であるXXXがYYYという働きかけによりZZZという状態になることで、コミュニティにAAAという変化が生まれ、コミュニティが強化されている



検討ポイント

- どのようなコミュニティを単位とするか(村・行政区・国、等)
- コミュニティの構成員は誰か
- コミュニティの構成員の理想の状態とは何か
- 誰のこういった問題が解決されるべきか
- 解決されたことをどのように示すことができるか
- 誰かの利益が誰かの不利益につながっていないか

回答

| | |
|----|-----|
| 1. | XXX |
| 2. | XXX |
| 3. | XXX |

図 60 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ A To Be を考える

4-2-2. グループ B：ケニアにおけるフードバリューチェーンの改善

情報ソース一覧

| 目的 | 情報ソース |
|---------------------|---|
| 国・テーマの全体感の把握 | ※必読※本資料 Appendix (p.8-10) |
| | 平成28年度フードバリューチェーン構築推進事業「東部アフリカにおけるフードバリューチェーン構築」 |
| ソリューションのイメージを得る | UNDP事例(インドブロックチェーンを活用したパイスの生産・流通管理)課題 (p.24) UNDP事例(インドブロックチェーンを活用したパイスの生産・流通管理)解決策 (p.26) |
| | スタートアップ事例①(ケニアにおける小規模農家とトラクターのオーナーのマッチング) |
| | スタートアップ事例②(作物収穫量向上のためのデータ分析・農業製品購入用プラットフォーム) |
| 視覚的情報からアフリカ農業の現状を把握 | ケニアの食品サプライチェーン向けソリューション(動画) ケニアにおける農業(動画) |

資料をインプットする際意識していただきたい論点

| | |
|---|--|
| 1 | どのようなステークホルダーが存在するのか(前回の振り返りも含めて) |
| 2 | 各ステークホルダー間の関係性はどのようになっているのか(誰が誰にどのような役割を果たしているか) |
| 3 | 各ステークホルダーはどういう現状なのか(何に困っているのか) |

図 61：第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ B 現地情報のインプット

| | どのような役割を果たしているか | どういう状態にあるか (As Is) | どういう状態になりたいか (To Be) | 情報ソース |
|----|-----------------|-------------------------------------|--|---|
| 生産 | 小規模農家 | | | |
| | 肥料・農業サプライヤー | | | |
| | 農業資材サプライヤー | | | |
| 加工 | 一次加工業者(例) | 農家から送られてきた生産物に対し、剥く等の単純な加工を手動で行っている | 技術不足のため低品質・小規模生産であり、腐敗や仲介業者の安値買取に悩んでいる | 高品質生産物の生産量を増やし、雇用の拡大、持続可能な加工事業の確立に繋がりたい |
| | 二次加工業者 | | | https://readyfor.jp/projects/KFS |
| 流通 | 物流業者 | | | |
| | 卸売り | | | |
| | 海外輸入業者 | | | |

図 62：第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ B ステークホルダーの情報整理 (1/2)

| | | どのような役割を 果たしているか | どういう状態にあるか (As Is) | どういう状態になりたいか (To Be) | 情報 ソース |
|-----|-----------|---------------------|-----------------------|-------------------------|-----------|
| 販売 | スーパーマーケット | | | | |
| | レストラン | | | | |
| | 青空市場 | | | | |
| 消費 | 国内消費者 | | | | |
| | 貧困消費者(国内) | | | | |
| その他 | 行政機関 | | | | |
| | NGO/NPO | | | | |
| | 金融機関 | | | | |
| | 国際機関 | | | | |

図 63 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ B ステークホルダーの情報整理 (2/2)

4-2-3. グループC：ケニアにおけるフードバリューチェーンの改善

- 第1回ワークショップでステークホルダー関連図を整理しました。この結果に基づいて、最終受益者として定めた「小規模農家」をめぐる課題について、より具体的な事象や課題を各自で調査してください(2~3事例)
- 調査のレファレンス先も示してください



小規模農家が抱える課題は具体的にどのようなものなのか

調査の視点(例)

“適正価格で買い取りされない”とはどういう状況なのか？なぜ？

農業資材(種子、肥料、機械など)へのアクセスにはどのような問題があるのか？

小規模農家同士のネットワークや組合組織の問題は何か、なぜ解決しないのか？

情報収集先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見
- ✓ Web上の情報検索(小規模農家のエンパワメントやバリューチェーンの強化/レジリエンス向上に取り組む国際機関・スタートアップ企業などの取り組み、リサーチペーパー、ニュース記事等)
- ✓ 前回お送りした事前資料(Appendix参照)の「その他参考情報」

➡ 次回ワークショップでは、皆さんが調査した具体的な内容に基づいて、As Is(問題ステートメント)とTo Be(理想の状態のステートメント)検討して頂きます。

図 64：第2回ワークショップに向けたワーク グループC 最終受益者にとっての問題の深堀り

- 1. の調査の結果、デスクトップリサーチでは把握しきれないことや、当事者への確認が必要な事項が出てくると思います。第2回ワークショップでは、以下のメンターの方々にインタビューを実施しますので、どのような質問をしたいか、検討してください

第2回ワークショップのメンター(ケニア)



OGALLO Isaac Otienoさん

- 2020年よりABEイニシアティブ研修員として来日中
- 東京農業大学農学研究科にて「Advanced utilization of local and natural food resources」をテーマに研究中(修士課程)
- 来日前は**バイオバーシティ・インターナショナル**に勤務、小規模農家の実態など、ケニアの農業事業に精通している



Dr. Timothy Njagiさん

- テゲメオ農業政策開発研究所**のリサーチフェロー
- 15年以上にわたり、政府や国際機関での研究や各種プロジェクト業務に従事
- ケニアと東アフリカ地域における農村開発、政策立案や評価、食料安全保障、貧困問題などを専門とする
- 日本の政策研究大学院大学(GRIPS)で国際開発の修士課程修了(2009年)

図 65 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ C インタビュー内容を考える

4-2-4. グループD：ナイジェリアにおける生産性向上/市場アクセス

- As Is(問題ステートメント)で、「人・技術・モノ・カネが不足し、マーケットでの情報の非対称性が大きいため、最終受益者である農家が生産性を向上できない」という課題があげられました。この「情報の非対称性」について、具体的な内容を各自で調査してください(2~3事例)
- 調査のレファレンス先も示してください



「マーケットでの情報の非対称性」とは具体的にどういうことか

調査の視点

誰がどのような情報を持っていて、誰が持っていないのか？

情報がどのように伝えられていてどこでストップしているのか？

調査のレファレンス先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見
- ✓ Web上の情報検索(小規模農家のマーケットアクセス向上や情報シェア向上に取り組む国際機関、スタートアップ企業などの取り組み、リサーチペーパー、ニュース記事等)
- ✓ 前回お送りした事前資料(Appendix参照)の「その他参考情報」

回答

| | 情報ソース |
|--------|-------|
| 1. XXX | XXX |
| 2. XXX | XXX |
| 3. XXX | XXX |

図 66：第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ D As Is で明らかになった「情報の非対称性」を明確化する

- 第1回ワークショップでの議論を踏まえ、To Be(理想の状態のステートメント)を各自で考えてください(複数案でもかまいません)

As Is(問題ステートメント)

情報が不足しているため、最終受益者である農家がバイヤーに買いたたかれるという状態になっている。

これまで、組合が時価を見て販売するといった取り組みが行われてきたが、構造上、中間業者による中抜きが発生するという(サプライチェーン上の)という問題点があり、問題の解決には至っていない。

人・技術・モノ・カネが不足し、マーケットでの情報の非対称性が大きいため、最終受益者である農家が生産性を向上できないという状態になっている。

これまで、利益の向上をはかるといった取り組みが行われてきたが、授受のステークホルダー間に距離が大きいという問題点があり、問題の解決には至っていない。

To Be(理想の状態のステートメント)



例:XXXがYYYに変化し、最終受益者であるZZZにXXXという影響を与えることができ、最終受益者のXXXがYYYに変化する。
また、最終受益者がXXXとなることにより、自律的好循環が生まれている。

図 67 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ D To Be を考える

4-2-5. グループ E：ナイジェリアにおける生産性向上/市場アクセス

- 第1回で情報収集した内容を踏まえ、As Is(問題の状態のステートメント)を各自で考えてください(複数案でもかまいません)

As Is(問題ステートメント)

Step3:As Isを3行くらいの文章で表現(問題ステートメントの作成)

上記のステークホルダー相関図を参考に、現状を3行程度の文章で示す、「問題のステートメント」を記載してください。

ポイント1:誰を最終受益者(課題当事者)と置くのか

ポイント2:最終受益者(課題当事者)は何に困っているのか

(サンプル)

XXXがYYYなため、最終受益者であるZZZがXXXという状態になっている。
これまでXXXによりXXXといった取り組みが行われてきたが、XXXという問題点があり、
問題の解決には至っていない。

ポイント3:その問題の解決に向けて
今まで誰が働きかけをしてきたか

調査のレファレンス先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見
- ✓ SDGs(17のゴール、169のターゲット)等、社会課題を具体的に定義した課題リスト
- ✓ Web上の情報検索(ドキュメンタリー、問題解決に取り組むNGO、国際機関等の調査結果、ニュース記事等)
- ✓ 前回お送りした事前資料(Appendix参照)の「その他参考情報」

図 68 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ E 問題点を考える

- グループワークのStep1で挙げたステークホルダーについて、お互いの関係性を調査してみましょう。仮で記載した内容を第二回ワークショップのメンターに確認して頂くことも可能です。

回答例 & 回答記入欄

| | ステークホルダー1 (役割) | 相互の関係性 | ステークホルダー2 (役割) | 出所 |
|-------|--------------------|--|------------------------|-----------------------|
| 回答例 | アカデミア(栽培適地について研究) | アカデミアは栽培適地の情報を持っているが、農家には十分伝わっていない、または、伝わっているが手間がかかるため実行されない | 農家(最終受益者) | 有識者ヒアリング(Prof. Tamer) |
| 回答記入欄 | 商社(農作物を買い付けてXXに輸出) | 商社は中間卸に品質のそろった農作物の安定的な供給を期待 | 中間卸(農家から生産物を買って、商社に販売) | YYY |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

調査のレファレンス先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見(他国の事例からの推察も可)
- ✓ Web上の情報検索(ドキュメンタリー、問題解決に取り組むNGO、国際機関等の調査結果、ニュース記事等)

図 69 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ E ステークホルダー間の関係性を示す

4-2-6. グループ F：エジプトにおける気候変動

- グループワークで定義した最終受益者(ナイル川沿いの小規模野菜農家)が今どういった問題を抱えているかを調査してください。(調査のレファレンス先も示してください)
- 上記を受けて、最終受益者がどういう状態になればいいのかを考えてみてください。

回答例&回答記入欄

| | | 最終受益者の 現在の 状態 | 最終受益者の 理想の 状態* |
|-------|--|---|--|
| 回答例 | | 事業継続が困難⇒XX年後の事業継続の見込みが立たない状態になっている方がYY人存在(出所: ZZZ) | 事業継続が困難⇒対象となる最終受益者のAA%について、BB年後の事業継続性が担保された状態。 |
| | | 日々の生計⇒日々の生活費をXXドル以下で過ごす方がYY人存在し、今後も増加する見込み(出所: ZZZ) | 日々の生計⇒日々の生活費をXXドル以下で過ごす方がAA%減少。もしくは、最終受益者の日々の生活費をBBドル以上に向上 |
| 回答記入欄 | | | |
| | | | |

調査のレファレンス先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見
- ✓ SDGs(17のゴール、169のターゲット)等、社会課題を具体的に定義した課題リスト
- ✓ Web上の情報検索(ドキュメンタリー、問題解決に取り組むNGO、国際機関等の調査結果、ニュース記事等)
- ✓ 前回お送りした事前資料(Appendix参照)の「その他参考情報」

*: “理想の状態”には正解がなく、関係者へのインタビューやデータ分析を通じて精緻にしていくものです。現時点では仮置きで問題ありません。

図 70：第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ F 最終受益者の As Is と To Be を考える

- グループワークのStep1で挙げたステークホルダーについて、お互いの関係性を調査してみましょう。仮で記載した内容を第二回ワークショップのメンターに確認して頂くことも可能です。

回答例 & 回答記入欄

| | ステークホルダー1 (役割) | 相互の関係性 | ステークホルダー2 (役割) | 出所 |
|-------|---------------------|--|-------------------------|------------------------|
| 回答例 | アカデミア (栽培適地について研究) | アカデミアは栽培適地の情報を持っているが、農家には十分伝わっていない、または、伝わっているが手間がかかるため実行されない | 農家 (最終受益者) | 有識者ヒアリング (Prof. Tamer) |
| | 商社 (農作物を買い付けてXXに輸出) | 商社は中間卸に品質のそろった農作物の安定的な供給を期待 | 中間卸 (農家から生産物を買って、商社に販売) | YYY |
| 回答記入欄 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

調査のレファレンス先の例

- ✓ 各自でお持ちの情報・知見(他国の事例からの推察も可)
- ✓ Web上の情報検索(ドキュメンタリー、問題解決に取り組むNGO、国際機関等の調査結果、ニュース記事等)

3

図 71 : 第 2 回ワークショップに向けたワーク グループ F ステークホルダー間の関係性を示す

4-3. 第3回ワークショップに向けたワーク

4-3-1. グループA：ルワンダにおける学校給食/コミュニティ強化

- 第1回～第2回ワークショップでの議論内容を踏まえ、To Be(理想の状態のステートメント)を各自で考えてください(議論に出てこなかったステークホルダーを追加して頂いてもかまいません。)

記載例: To Be(理想の状態のステートメント)

※Step4の関連図を参照

例: XXXという状態が改善されることで、コミュニティの構成員であるYYYがZZZという状態になることで、コミュニティにAAAという変化が生まれ、コミュニティに自律的好循環が生まれている

ポイント: コミュニティの構成要素である各ステークホルダーにもたらされるポジティブな変化や影響は何か

回答

案1: XXX

案2: XXX

図 72 : 第3回ワークショップに向けたワーク グループA To Beのステートメントを考える

- 第2回ワークショップで描いたTo Beのステークホルダー相関図に基づき、ステークホルダーが得られるValueやポジティブな変化、リターンを示す指標(アウトカム)を考えていただきます
- 以下の例を参考に、ステークホルダーを最低3つ選んでアウトカム(=成果)指標を挙げてください。ステークホルダーを追加していただいても構いません

指標設定例



指標設定のポイント

- 指標は時間の経過とともに変化する変数とする(増えたり減ったりする)
- 変数は定性的なものでも定量的なものでもかまわない
- 変数は、結果(パフォーマンスや効果の度合い)を示す指標だけではなく、人々が重んじること(期待や目標の度合い)、外部への要求(必要性の度合い)、要求を満たすためのリソース(投資やスキル水準)や、人々の考えを表す認知的な要素(満足、安心、恐れ)などがある

(出典: デイヴィッド・ピーター・ストロー「社会変革のためのシステム思考実践ガイド」)

図 73 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ A アウトカム指標を考える 例

- 第2回ワークショップで描いたTo Beのステークホルダー相関図(Step 4)に基づき、ステークホルダーが得られるValueやポジティブな変化、リターンを示す指標を考えていただきます
- 以下の例を参考に、ステークホルダーを最低3つ選んでアウトカム(=成果)指標を挙げてください。ステークホルダーを追加していただいても構いません

| 回答欄 | |
|------------------------------------|--|
| * 青字部分は記入例です。ご自身で指標を追加して頂いても構いません。 | |
| ステークホルダー | アウトカム指標 |
| 保護者 | <ul style="list-style-type: none"> 所得に対する給食費 貧困率 子供に教育(よりよい未来)を提供する意義の理解 |
| 学校 | <ul style="list-style-type: none"> 修学者数 給食設備を備えた学校の数 給食を提供することで地域に貢献できることへの誇り |
| XXX | ・ XXX |
| XXX | ・ XXX |
| XXX | ・ XXX |

余力のある方

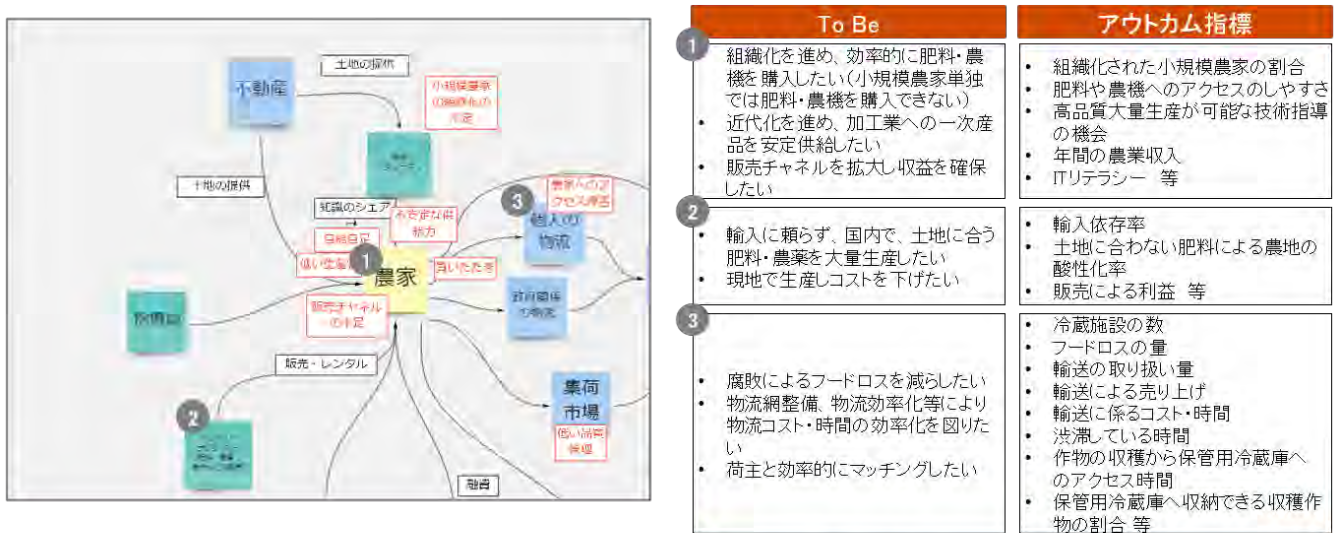
- 第3回ワークショップで取り組むStep7の因果ループ図において、考えていただいたアウトカム指標同士がどのような因果関係でつながるのか、短い文章で考えてみてください。
例: 給食設備の増加及び、設備利用スタッフのスキル向上に伴い、安定的な給食の提供が可能に。それにより、保護者からの学校に対する信頼の強化に繋がった。

図 74 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ A アウトカム指標を考える 回答欄

4-3-2. グループ B：ケニアにおけるフードバリューチェーンの改善

- 第2回ワークショップで描いたステークホルダーマップ・As Isに基づき、To Beのステークホルダー相関図及びステークホルダーが得られるValueやポジティブな変化、リターンを示す指標(アウトカム)を考えていただきます
- 以下の例を参考に、To Be像及びアウトカム(=成果)指標を挙げてください。

To Be及び指標設定例



指標設定のポイント

- 指標は時間の経過とともに変化する変数とする(増えたり減ったりする)
- 変数は定性的なものでも定量的なものでもかまわない
- 変数は、結果(パフォーマンスや効果の度合い)を示す指標だけではなく、人々が重んじること(期待や目標の度合い)、外部への要求(必要性の度合い)、要求を満たすためのリソース(投資やスキル水準)や、人々の考えを表す認知的な要素(満足、安心、恐れ)などがある

(出典: デイヴィッド・ピーター・ストロー「社会変革のためのシステム思考実践ガイド」)

図 75：第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ B To Be・アウトカム指標を考える 例

| | | どうい状態になりたいか (To Be) | アウトカム指標 | 情報 ソース |
|----|--------------------------------|------------------------|---------|-----------|
| 生産 | 農家 | | | |
| | 不動産 (農家に土地を提供) | | | |
| | インプットサプライヤー (肥料、農薬、種子などを販売) | | | |
| | 地域コミュニティ | | | |
| | 農家の指導員 | | | |
| 加工 | 加工業者 | | | |

図 76 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ B To Be・アウトカム指標を考える 記入欄 (1/4)

| | | どうい状態になりたいか (To Be) | アウトカム指標 | 情報 ソース |
|----|----------------|------------------------|---------|-----------|
| 流通 | 物流 (個人) | | | |
| | 物流 (政府関係) | | | |
| | 卸 | | | |
| | 集荷市場 | | | |
| | 輸出業者 (倉庫あり) | | | |

図 77 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ B To Be・アウトカム指標を考える 記入欄 (2/4)

| | | どういふ状態になりたいか (To Be) | アウトカム指標 | 情報 ソース |
|----|--------------------|-------------------------|---------|-----------|
| 販売 | 小売(青空市場等) | | | |
| | スーパーマーケット | | | |
| | 八百屋 | | | |
| | 不動産 (販売店に土地を提供) | | | |

図 78 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ B To Be・アウトカム指標を考える 記入欄 (3/4)

| | | どういふ状態になりたいか (To Be) | アウトカム指標 | 情報 ソース |
|-----|-----------|-------------------------|---------|-----------|
| 消費 | 裕福な消費者 | | | |
| | 中間層以下の消費者 | | | |
| その他 | 金融機関 | | | |
| | 政府 | | | |
| | 保険士・栄養士 | | | |

図 79 : 第 3 回ワークショップに向けたワーク グループ B To Be・アウトカム指標を考える 記入欄 (4/4)